

新国立競技場基本設計条件（案）

平成 25 年 11 月

独立行政法人 日本スポーツ振興センター

基本設計条件(案) 目次

1. これまでの経緯
2. 新国立競技場に求める姿
3. 敷地概要
4. 収容人数
5. 施設規模
6. 構造
7. フィールド
8. 観客席
9. 開閉式屋根
10. 芝生の養生・維持管理
11. ホスピタリティ施設
12. スポーツ振興機能(秩父宮スポーツ博物館・商業施設)
13. 設備機器の検討
14. アクセス
15. 周辺整備
16. 周辺環境との調和、影響の検討
17. 駐車場
18. 安全性の確保
19. 災害時の対応
20. 建設費
21. 工期
22. 記念作品、芸術作品などの活用・保存

※本設計条件(案)で示している図等については、今後の基本設計の検討により変更もあり得る。

1. これまでの経緯

【1964年の東京オリンピックのメインスタジアム】

1964年の東京オリンピックは、日本が戦後復興をとげ、国際社会の舞台に復帰するシンボルであった。国家プロジェクトとして開催された本大会において、国立霞ヶ丘競技場（以下、国立競技場という。）はメインスタジアムとして使用され、その後、オリンピックのレガシーとして今日まで大切にされてきた。

【現在の国立競技場の現状】

しかしながら、それから半世紀が経過し、現在の国立競技場は、経年による劣化が著しく、また、陸上トラックが8レーンであることなど国際大会を開催するのに支障が生じている状態である。

【ラグビーワールドカップ2019】

また、2019年に開催が決定しているラグビーワールドカップも、ラグビーワールドカップ2019日本大会成功議員連盟により「ラグビーワールドカップ日本大会をはじめ、首都・東京で今後開催予定の大規模な国際競技大会のメインスタジアムとして活用するべく、国立霞ヶ丘競技場を8万人規模のナショナルスタジアムとする」ことが決議された。

【オリンピック・パラリンピックの2020東京招致】

一方、半世紀が経過し、2011年12月の衆議院本会議及び参議院本会議において、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を東京へ招致するため、「国を挙げて、必要となる支援や競技環境等その準備態勢を整備すべきである」ことが決議され、本年9月7日、IOC総会において東京招致が決定された。ブエノスアイレスにおけるIOC総会プレゼンテーションにおいても、新国立競技場の建替えを政府として確約したところである。

【スポーツ基本計画】

これらの背景には、2011年6月に制定されたスポーツ基本法がある。また、これに基づき、2012年に「スポーツ基本計画」が策定された。この計画において、「今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策」の1つとして、「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」が掲げられており、この中で、日本スポーツ振興センターは「国立霞ヶ丘競技場等の施設の整備・充実等を行い、オリンピック・ワールドカップ等の大規模な国際大会の招致・開催に対し支援する」とされており、新国立競技場の整備はいわゆる

ナショナルプロジェクトとして位置付けられている。

【国立競技場の建替え】

2013年9月7日に開催が決定された2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして、また2019年に開催が決定しているラグビーワールドカップのメインスタジアムとして、国立競技場を8万人規模のナショナルスタジアムに建替え、新たな歴史に一步を踏み出すこととした。

【有識者会議の設置及びデザイン競技実施の決定】

新国立競技場の将来構想については、「国立競技場将来構想有識者会議(委員長:元日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使 佐藤禎一氏)」を平成24年3月に設置し、将来構想の検討を行うとともに基本構想デザイン案を募ることを目的として「新国立競技場基本構想国際デザイン競技」(以下、デザイン競技という。)を行うことが提案され、日本スポーツ振興センターとして行うことを決定しました。

【デザイン競技募集要項の決定】

これを受け、同有識者会議の下に設置されたスポーツWG(座長:日本サッカー協会名誉会長 小倉純二氏)・文化WG(座長:作曲家 都倉俊一氏)からの要望を、建築WG(座長:建築家 安藤忠雄氏)がとりまとめ、同デザイン競技募集要項の検討を行い、同年7月同有識者会議で了承されました。

【デザイン競技の実施】

日本スポーツ振興センターは、7月20日に同デザイン競技募集要項の交付を開始し、9月25日の提出期限までに46作品の応募がありました。これらを審査をするために「審査委員会(委員長:建築家 安藤忠雄氏)」を設置し、10月16日に第1次審査で11作品に絞り込み、11月7日の第2次審査でザハ・ハディド氏の案を最優秀作品に選定し、11月15日に有識者会議において了承されました。

【フレームワーク設計の実施】

その後、基本設計に入る前段階として、ザハ・ハディド氏のデザイン案を基にコストや規模などの基本設計条件を整理するための「フレームワーク設計」を行うこととし、3月1日に公募型プロポーザル方式で選定手続きを開始し、別途設置した選定委員会において、5月15日に、日建設計・日本設計・梓設計・アラップジャパンの4社JVを特定し、5月31日に契約しました。

併せて、ザハ・ハディド・アーキテクツとデザイン監修契約を結んでいます。

【フレームワーク設計における検討】

「フレームワーク設計」では、ザハ・ハディド・アーキテクツのデザイン監修の下、基本設計を行う前段階として、既に決定しているラグビーワールドカップに加え、オリンピック・パラリンピック競技大会開催を想定しつつ、ザハ・ハディド氏のデザイン案を忠実にかつスポーツ・文化の各WGから出された要望をすべて取り入れた場合の試算を行いました。

その試算した工事費がデザイン競技時の目安を超えるものであったため、各方面からの御指摘などを拝聴しながら、ザハ・ハディド氏のデザイン案を生かしつつ、各競技の関係規定を前提に、規模やコストを縮小し、基本設計条件をとりまとめました。

2. 新国立競技場に求める姿

- ・新しく整備する競技場では、スポーツ基本計画で謳われている大規模競技大会が開催できる競技場であるとともに、スポーツ利用のない時でも文化的利用を行うことができる大規模集客施設であること、また、神宮外苑という地域性への配慮と環境性能にも優れた、世界に誇れるスポーツ・文化の拠点となることが求められる。
- ・既に開催が決定したラグビーワールドカップ及びオリンピック・パラリンピック競技大会が様々な面において最高の大会となるような競技場であること。
- ・第2回有識者会議(平成24年7月)においてとりまとめられた新競技場に求められる要件(目指すスタジアムの姿)は以下のとおりである。

○大規模な国際競技大会の開催が実現できるスタジアム

- ・国家プロジェクトとして、世界に誇れ、世界が憧れる次世代型スタジアムを目指す
- ・アスリートやアーティストのベストパフォーマンスを引き出す高性能なスタジアムを目指す

○観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム

- ・世界水準のホスピタリティ機能を備えたスタジアムを目指す
- ・開閉式の屋根や、ラグビー、サッカー及び陸上いずれの競技の開催においても、競技者と観客に一体感が生まれる観覧席を備えた、快適で臨場感あふれるスタジアムを目指す

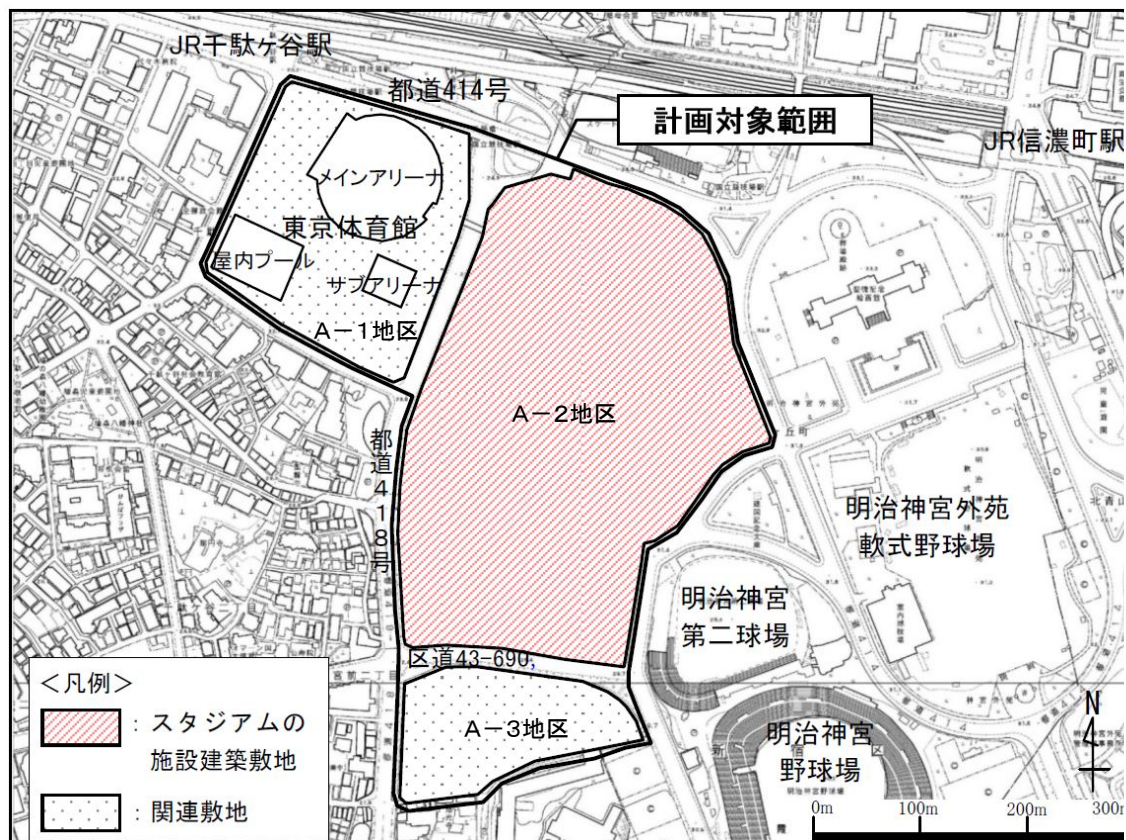
○年間を通してにぎわいのあるスタジアム

- ・コンサート等の文化的利活用を楽しめる工夫が施され、特に音響に配慮された多機能型スタジアムを目指す
- ・各種大会や文化利活用がない時でも気軽に楽しめる商業・文化等の機能を備えたスタジアムを目指す

○人と環境にやさしいスタジアム

- ・最先端の環境技術を備え、緑あふれる周辺環境と調和するスタジアムを目指す
- ・震災等の災害発生時にも安全で、避難・救援等に貢献できるスタジアムを目指す
- ・スタジアム内外及び周辺駅からのバリアフリーに配慮されたスタジアムを目指す

3. 敷地概要



項目	内容
所在地	東京都新宿区霞ヶ丘町 10 番 1 号ほか(東京都新宿区及び東京都渋谷区)
敷地面積	建設敷地(A-2 地区) : 約 113,000 m ² (国立霞ヶ丘競技場 : 約 74,000 m ² 明治公園(四季の庭、霞岳広場) : 約 29,800 m ² 日本青年館 : 約 5,000 m ² 新宿区道 : 約 4,200 m ²) 関連敷地(A-1 地区) : 約 46,000 m ² 関連敷地(A-3 地区) : 約 25,000 m ² 計 : 約 184,000 m ²
道路幅員	東側:区道 43-670 約 15m、18m 西側:都道 418 号 約 22m 南側:区道 43-690 約 20m 北側:都道 414 号 約 22m
地域地区	用途地域 : 第二種中高層住居専用地域 風致地区 : 明治神宮内外苑風致地区(第二種風致地区) 文教地区 : 第一種文教地区 防火指定 : 準防火地域 高度地区 : 第二種高度地区
地区計画	東京都市計画神宮外苑地区地区計画(再開発等促進区)
容積率	250%(見直し相当容積率 200%+評価容積率 50%)
建蔽率	70%(10%角地緩和込)
日影規制	3.0 時間-2.0 時間
都市計画施設	都市計画公園

4. 収容人数

新国立競技場の収容人数は、以下を考慮し、固定席（可動席を含む）8万人とする。

- ① 2019年ラグビーワールドカップや2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会のメインスタジアムとして使用されること。
- ② 新国立競技場は、今後50年100年使っていく計画であり、毎年開催されるサッカー日本代表戦やコンサートの開催、FIFAワールドカップや世界陸上など大規模大会の招致が想定されること。
- ③ 近年の開催地では、2008年北京大会9万1千人、2012年ロンドン大会8万人、2016年リオデジャネイロ大会9万人規模となっており、2020年開催地決定の際のオリンピック招致ファイルによって約束したこと。

5. 施設規模

デザイン競技時から、コストおよび維持管理等を考慮しつつ、以下の見直しポイント等について検証を進めてきた結果、合計約22万㎡を目安に基本設計を行う。

（見直しのポイント）

- ・各競技間の必要諸室の共用化
- ・大規模大会時の必要諸室の仮設対応化
- ・秩父宮スポーツ博物館の縮小
- ・レストラン等商業施設の縮小
- ・ホスピタリティ専用エリアの縮小
- ・駐車場台数の削減（900台→662台）

想定面積内訳（詳細を参考に付す）

各機能	現在案
競技等機能	26,180 ㎡
競技等関連機能	8,410 ㎡
観覧機能	85,170 ㎡
メディア機能	3,520 ㎡
ホスピタリティ機能	20,420 ㎡
防災警備機能	810 ㎡
スポーツ振興機能	15,050 ㎡
維持管理機能	25,070 ㎡
新規機能（立体通路）	5,520 ㎡
駐車場	34,800 ㎡
合計	224,950 ㎡

施設規模については、基本設計で今後も諸室規模の精査や専用室の共用化、各競技団体との調整により継続検討する。

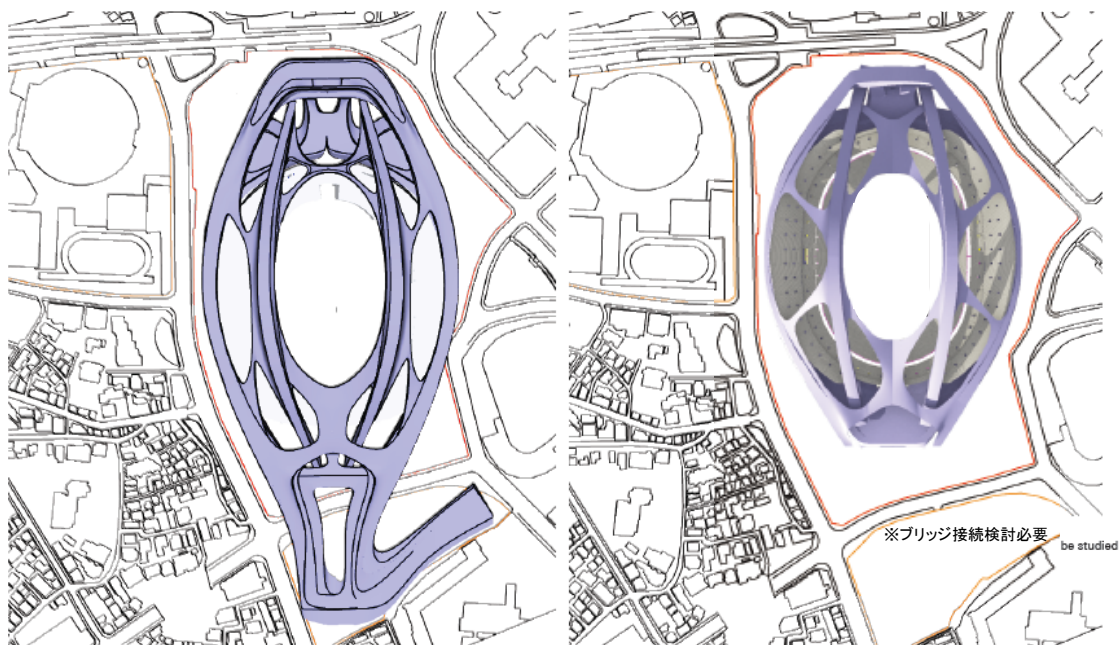
6. 構造

施設規模の縮小や都市計画、建築基準法などの規定を踏まえ、デザイン競技時のデザイン案を生かしつつ、コンパクト化を図ることが可能であることが検証された。コンパクト化を図った現在案を以下に示す。

その具体的な構造計画は、今後、基本設計において検討する。

なお、その際、大地震時においても、機能が損なわれない施設となる耐震性能を確保する。そのために、固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風荷重、地震荷重について、他事例や各種文献を参考に本計画で想定する荷重の整理を行い、法基準等に従った安全・安心な大規模空間を形成する。

○2013 年 3 月時点案と現在案の規模比較



【2013 年 3 月時点案】

【現在案】

7. フィールド

フィールドは以下に対応可能とする。

- ・ラグビー : ラグビーワールドカップ決勝戦、国際ラグビー大会、国際ラグビー7のトーナメント
- ・サッカー : FIFA ワールドカップ、クラブワールドカップ、国際大会及びJリーグ大会
- ・陸上 : オリンピック、パラリンピック、アジア競技大会、世界陸上、
その他類似規模の IAAF (国際陸連) クラス 1 イベント
- ・上記の開会式や閉会式などのセレモニー関連、エンターテインメントのイベント、コンサート、展示会

8. 観客席

陸上競技だけでなく、ラグビーやサッカー、その他スポーツの競技者と観客に一体感が生まれ、臨場感あふれるピッチに近い観客席となるよう計画する。また、コンサート使用時に、優れた音響環境となるよう配置や材料を考慮する。さらに、観客席はバリアフリーに対応し、誰もが安心して観戦できる計画とする。

■ 可動席

ラグビーやサッカー、陸上競技、コンサートなど、開催するイベントによって、求められるフィールドの大きさやフィールドと観客席との距離が変わることから、観客席の一部を可動式にして、イベントに応じてフィールドと観客席の間隔を最適にすることで、臨場感を最大限まで高めることを目指す。

9. 開閉式屋根

開閉式屋根については、その活用やコストパフォーマンスを含めて、今後検討することとする。

ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック競技大会などのスポーツイベントだけでなく、コンサートなどの文化的なイベント利用を想定した場合に、天候に係わらない安定的な開催や増収を図る観点からは、屋根の一部が可動する開閉式屋根の設置は必要である。

設計する際には、競技場内の音響性能はもとより、コンサート時の周辺への音漏れを極力抑えるよう遮音性にも配慮することが必要である。

10. 芝生の養生・維持管理

芝生育成のため、ピッチ面で出来るだけ多くの日照や通風が得られるように建物形状、屋根の材質、補助設備等について検討し、その上で最適な芝生の養生・維持管理方法を検討する。イベント実施の際は、芝生養生シートの敷設を行うことや、今後検討するその他の方法とも合わせ、極力芝生を傷めないよう配慮する。

11. ホスピタリティ施設

世界水準のおもてなしが実現できるVIP席およびボックスシート、またそれらに付随したラウンジやレストラン等のホスピタリティ施設を計画する。イベント開催日以外も、利用規模に応じてダイニングやミーティング等で利用できるように計画とする。

今後、基本設計において収入とコストを最適化する観点から検討を進める。

12. スポーツ振興機能 (秩父宮スポーツ博物館・商業施設)

新国立競技場がスポーツ、文化の拠点として機能するため、スポーツの素晴らしさを伝える秩父宮スポーツ博物館と図書館、また、地域住民に開放するトレーニングセンターを併設する。それらはイベント日以外の来訪者も利用でき、学生の教育の場や観光スポットとなるような計画とする。

また、競技場を訪れる人や地域住民の利便性を考慮し、最低限のアンテナショップやレストラン等を設ける。

今後、基本設計において収入とコストを最適化する観点から検討を進める。

13. 設備機器の検討

■ 空調設備

本施設は、全天候で使用可能な開閉式屋根をもつスタジアムとして、多様な使用形態に対応した空調計画が求められる。夏季に開催する大会等を想定し、熱中症対策のため、気温上昇等を考慮する必要があることから、大空間となるスタジアムの空調は、観客席エリアを対象として省エネルギー性に配慮した座席下吹出方式による居住域空調を検討する。

■ スタジアム照明設備等の検討

ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の照明基準に対応した照明計画とし、競技者や観客のために最適な照明環境（明るさ、まぶしさ等）に配慮した照明設備を検討する。

■ 環境への配慮

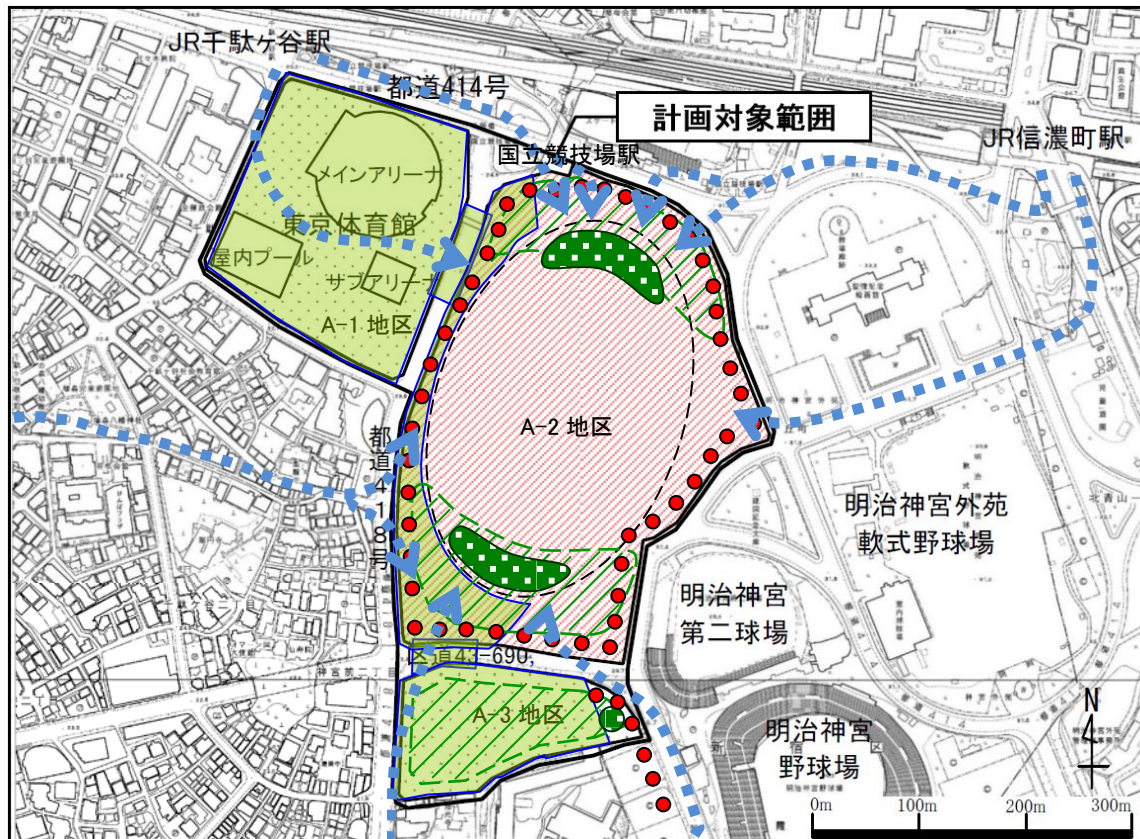
省エネルギー性に優れ長寿命な器具の導入を検討し、環境性、保守性に配慮するとともに、太陽光発電設備など自然エネルギーの導入や雨水利用など、環境に配慮した設備を検討する。

■ スタジアム映像・音響設備

大型映像装置については、ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の定める基準（大きさ、台数等）に対応した計画とするとともに、競技者や観客に対応した表示の見やすさ等に配慮した表示部サイズを検討する。

スタジアム音響設備について、ラグビー、サッカー、陸上など各競技団体の定める音量基準に対応した音響システムを計画するとともに、競技者や観客に対応したスピーカ設置位置等を検討する。

14. アクセス



○周辺駅からのアクセス

- ・6つある周辺駅の方面からスタジアムにアクセスすることになる。
- ・多くの利用者が見込まれるのは、北側にあるJR千駄ヶ谷駅と信濃町駅、都営大江戸線国立競技場駅の3駅である。その他、南側にある東京メトロ青山一丁目駅、外苑前駅及び西側にある北参道駅の3駅からのアクセスが見込まれる。
- ・これを前提に置き、今後の基本設計で競技場へのアプローチなどを検討する。

○車両アクセス

- ・地盤レベルかそれ以下に想定する駐車場へのアクセス性及びマラソン競技者のピッチへのアクセス性を考慮し、車両のメインアクセス箇所は、敷地外周道路のうち標高のもっとも低い敷地西側の都道 418 号線(外苑西通り)からと設定する。ただし、都道 418 号線(外苑西通り)にすべての出入口を集中させず、他の外周道路からも適切に出入りできる計画とする。

15. 周辺整備

周辺整備の設計については、周辺地域との関係があることから、東京都等関係自治体とも調整しつつ進める。

■ 歩行者デッキの接続

交通機関、道路(歩道)や公園、他の敷地など既設の基盤交通機能との相互の連携・調和に配慮し、地区全体にわたり回遊性のあるネットワークを持ち、バリアフリーに配慮するとともに、敷地内を貫通する歩行者空間、人溜まり空間(滞留スペース)となる広場的な歩行者空間の検討を進める。

■ 公園の確保

都立明治公園の再配置にあたり、現在の特徴と基本的な性格を継承しつつ、現有規模の確保を図る。なお、広域的な緑のネットワークとの連続性、新国立競技場との一体的空間の整備、分断されていた既存公園の一体性・連続性の確保、立体公園制度の活用、歩行者や人溜まりのための空間と公園の緑との連携・共存に配慮した計画とする。

■ 空地の確保

オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模大会時には、施設の性格上、人の流れが集中することから、安全で快適な空間として歩道状空地、広場状空地を適切な位置に確保するとともに、歩行者デッキ、公園と併せて、機能面での連携に配慮した計画とする。

16. 周辺環境との調和、影響の検討

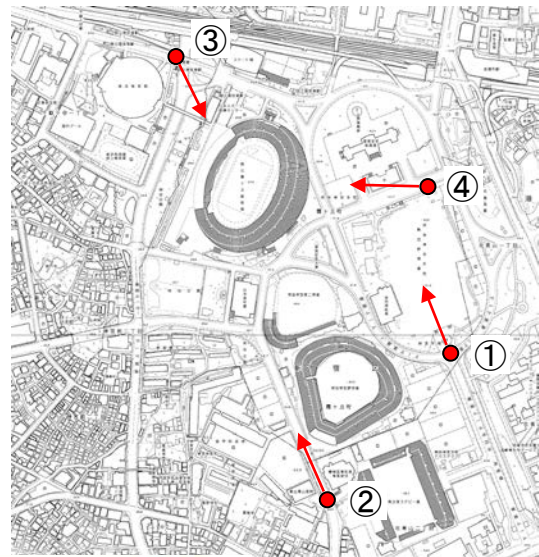
東京都環境確保条例等に示されている、土壌・地下水・騒音・大気等に関する規制値や基準を遵守し、周辺環境へ配慮する。特にイベント時の騒音に配慮するため、建物各所に遮音材や吸音材の採用を考慮する。

周辺には適切に緑を計画し、神宮外苑地区の緑と一体となった景観を目指す。

また、現在案の場合の周辺からの見え方をシミュレーションしたものを以下に示す。

撮影位置・方向を右図に示す。

撮影条件：地上地盤より 1.5m の
高さで撮影。



【現状】①

【現在案】①





【現状】②

【現在案】②



【現状】③

【現在案】③

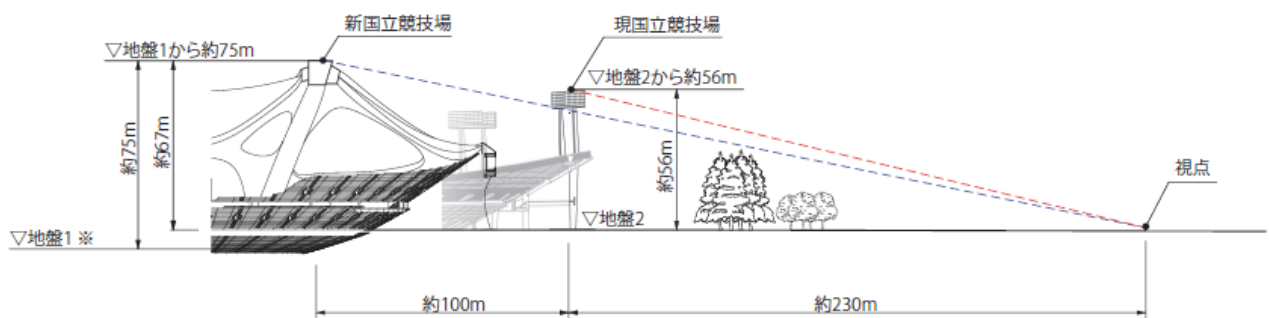




【現状】④



【現在案】④



※地盤1：平均地盤レベルは、今後の官庁指導及び設計の進捗により設定を行います。

17. 駐車場

新国立競技場に附置する駐車場は、直営の大会運営に最低限必要な台数(662台)を確保する。具体的には以下のとおり。

合計 662 台

(うち、乗用車 507 台(競技者用 26 台、VIP/VVIP 用 430 台、メディア用 15 台、

関係者用 36 台)、身障者用 60 台、バス 54 台、荷捌用・中継車用 41 台)

この台数は、東京都駐車場条例等の関連法規に定められている台数(635 台)と同程度である。

なお、オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模大会において追加で必要な台数は、周辺駐車場や仮設で対応することが想定されている。

18. 安全性の確保

■ 避難計画

イベント時に最大 80,000 人が集まる施設であり、非常時における避難について十分に検討する必要がある。特に、観客席から避難階へ安全かつスムーズに一時避難できる動線及び流動計画の検証や、一時避難先となる場所(人溜まり空間)の適切な確保等を、各種法規制や国内外事例を参照しながら、今後具体的に検討する。

19. 災害時の対応

■ 方針

競技やイベントなどで多数の人が集まり、非常時・災害時には地域住民の避難場所としての役割も期待されることから、その安全性の確保は極めて重要である。

特に、新国立競技場は、大規模空間であり、かつ、開閉式屋根が設定されていることから、天候にかかわらず多数の人が避難できるメリットがある。

また、新宿、渋谷などのターミナル駅からも災害時の徒歩によるアクセスが比較的容易な立地にある。このため、今後、首都直下型地震帰宅困難者等対策協議会最終報告等の関連規定に示されている「一時滞在施設」「避難所」等の位置づけを自治体と相談しながら決定し、災害時対応の方針等を作成する。

20. 建設費

建設費については、昨今の建設物価高騰への対応、工期厳守対策、オリンピック・パラリンピック競技大会開催への対応(オリンピック・パラリンピック仕様の空調設備の設置や周辺の整備)を考慮しつつも、可能な限り建設コストの縮減に努める。

また、現時点での見積額は、1,413億円（本体工事）。これに加え周辺整備工事372億円、現競技場解体工事67億円。

なお、周辺整備工事で見込んでいる内容は以下のとおり。

周辺整備工事内訳	
サブトラック連絡通路	30 億円
人工地盤等（バリアフリー）	266 億円
都営大江戸線との接続（バリアフリー）	11 億円
立体公園（バリアフリー）	39 億円
上下水道幹線移設	26 億円
合計	372 億円

21. 工期

新国立競技場は、2019 年（平成 31 年）9 月～10 月に開催予定のラグビーワールドカップの会場として使用されることが決定していることから、現時点では下記のとおり既存施設解体及び建設工事工程を予定している。

- 建物解体（15 ヶ月）：2014 年（平成 26 年）7 月～2015 年（平成 27 年）9 月
- 建設工事（42 ヶ月）：2015 年（平成 27 年）10 月～2019 年（平成 31 年）3 月

22. 記念作品、芸術作品などの活用・保存

■ 記念作品、芸術作品、記念碑

現国立競技場敷地内にある記念作品、芸術作品、記念碑については、既存施設解体時に取り外し、別所にて保管し、今後決定される活用・保存等の方針に従い、再設置や保存等を実施する。

特に、「出陣学徒の碑」については、国立競技場の歴史的経緯に鑑み、新国立競技場の敷地内に保存する。

■ 植栽等

既存の敷地内樹木については、解体工事費、建設費、工期や新国立競技場の施設計画との兼ね合いを考慮して、適切な新植、移植、伐採、再利用等に関する計画を検討する。

機能別諸室規模一覧表（案）

新国立競技場	縮小諸室規模	
機能	部屋名	JSC 調整面積（㎡）
競技等機能	競技空間	22,000㎡
	小計	22,000㎡
	器具庫	1,500㎡
	練習用走路	2,000㎡
	メンテナンス事務室	50㎡
	メンテナンス倉庫	600㎡
	洗い場	30㎡
	小計	4,180㎡
		26,180㎡
競技等関連機能	チーム更衣室	800㎡
	選手更衣室	300㎡
	シャワー室・浴室・給湯・洗面・トイレ	450㎡
	マッサージルーム	160㎡
	リフレッシュエリア	100㎡
	ウォーミングアップスペース（屋内）	300㎡
	ウエイトトレーニング場	240㎡
	サウナ/リラクゼーションエリア	60㎡
	楽屋	200㎡
	監督室	80㎡
	帯同スタッフルーム	80㎡
	審判更衣室	160㎡
	大会用多目的室	500㎡
	医務室（事務室）	100㎡
	医務倉庫	20㎡
	ドーピングコントロール室	250㎡
	待機室（ドーピング検査待合室）	400㎡
	大会運営本部	200㎡
	ジェネラル・コーディネーター室	40㎡
	競技運営本部	160㎡
	マッチコミッショナー室	40㎡
	マッチコーディネーションミーティング室	50㎡
	運営サポート共通室	1,000㎡
	設備関連諸室	560㎡
	小計	6,250㎡
	共用（トイレ、倉庫、廊下等）	2,160㎡
	小計	2,160㎡
		8,410㎡
観覧機能	観覧席	44,000㎡
	コンコース（コンコース、階段、昇降機、倉庫等）	29,700㎡
	チケットセンター	300㎡
	救護室	250㎡
	授乳室	120㎡
	キッズスペース	160㎡
	託児室	140㎡
	トイレ	8,400㎡
	レストラン、売店（一般用）	2,100㎡
	物流冷蔵倉庫	コンコース面積に含む
	調整面積	
	小計	85,170㎡
		85,170㎡
メディア機能	記者等の作業スペース（スタジアム常設プレスセンター）	720㎡
	実況放送スタジオ	360㎡
	実況放送コントロールエリア	110㎡
	会見場（記者会見室）	550㎡
	ミックスゾーン	600㎡
	TVスタジオ	160㎡
	TV控室（HB控室）	200㎡
	認定オフィス（メディア受付）	20㎡
	小計	2,720㎡
	共用（トイレ、倉庫、廊下等）	800㎡
	小計	800㎡
		3,520㎡

※諸室の面積については、今後、基本設計において増減があり得る。

新国立競技場	縮小諸室規模	
機能	部屋名	JSC 調整面積（㎡）
ホスピタリティ機能	VIPウェルカムデスク	100㎡
	VIPラウンジ	2,700㎡
	VIP/WVIPインタビューブース	30㎡
	VIP/WVIPメディカルルーム	40㎡
	VIP/WVIPキッチン	900㎡
	SP/ドライバーエリア	100㎡
	VVIP控室	80㎡
	VVIPウェルカムデスク	100㎡
	VVIPラウンジ	300㎡
	VVIP用トイレ	20㎡
	個室ラウンジ	30㎡
	観戦ボックス	4,400㎡
	会員用ラウンジ	1,900㎡
	キッチン	3,000㎡
	レストラン	2,700㎡
	小計	16,400㎡
	共用（トイレ、倉庫、廊下等）	4,020㎡
	小計	4,020㎡
		20,420㎡
防災警備機能	警備本部	150㎡
	警察・消防指令室兼控室（警察・消防詰所）	660㎡
	小計	810㎡
スポーツ振興機能	資料展示・映像エリア	3,600㎡
	スポーツ体験エリア	
	企画展示室	
	図書館	
	教育普及・生涯学習関連諸室	
	事務室	
	ボランティア控室	
	更衣室・ロッカー	
	調査研究諸室	
	収蔵庫	
	閉架書庫	
	ミュージアムショップ	
	多目的ホール	
	レストラン、カフェ	
	飲食事業スペース「非イベント時来場者用」	1,000㎡
	物販事業スペース「非イベント時来場者用」	1,000㎡
	サービス事業スペース「非イベント時来場者用」	100㎡
	スポーフィットネス事業	4,350㎡
	企業（パートナー）・大会運営組織等への賃貸スペース	1,730㎡
	小計	11,780㎡
	共用（トイレ、倉庫、廊下等）	3,270㎡
	小計	3,270㎡
		15,050㎡
維持管理機能	管理運営本部	900㎡
	会議室	400㎡
	防災センター（警備防災業務）	400㎡
	設備センター（設備保守運転監視業務）	90㎡
	清掃センター（環境衛生業務）	200㎡
	駐車場センター（駐車場管理業務）	200㎡
	保管庫（警備防災エリア）	40㎡
	防災倉庫	800㎡
	受変電設備	3,610㎡
	受水排水設備	4,000㎡
	熱源設備	5,650㎡
	空調設備	5,610㎡
	廃棄物処理エリア	900㎡
	小計	22,800㎡
	共用（トイレ、倉庫、廊下等）	2,270㎡
	小計	2,270㎡
		25,070㎡
新規機能	立体通路	5,520㎡
		5,520㎡
駐車場	一般用駐車場	34,800㎡
	小計	34,800㎡
延床面積合計		224,950㎡

※諸室の面積については、今後、基本設計において増減があり得る。